

CARE World



ケア・インターナショナル ジャパンは、世界90ヶ国以上で人道支援活動を行う国際NGOケア・インターナショナルの一員です。災害時の緊急・復興支援や「女性と女子」の自立支援を通して、貧困のない社会を目指しています。

Contents

- page 1 「CAREパッケージ(ケア物資)」の新たな事実
- page 2・3 写真で見る「CAREパッケージ(ケア物資)」
- page 4 スタッフ寄せ書き
(30年後のケア・インターナショナル ジャパンに向けて)

Vol. **33** Newsletter
June 2017

ケア・インターナショナル ジャパン

変える、女性も女子も活躍する豊かな世界に

後に、小包の内容が改良され、
白米、味噌、醤油なども加わりました

☆創立30周年☆

私たちの原点 「CAREパッケージ」の 新たな事実

1946年5月11日の夕暮れ、フランス北西部の港町ル・アーヴルの船着き場に、茶色の小包が届きました。「CAREパッケージ(ケア物資)」と呼ばれたこの小包は、第二次世界大戦で被災した欧州の親戚や知人に米国の市民が届けた救援物資でした。その2年後の1948年、同じ小包は、食糧や衣料等の物資が極めて不足していた日本の地にも届けられ、8年間にわたり困窮した1,000万人の日本人を救いました。

その恩恵を受けた私たちの先代が、次は世界に恩返しをという思いから1987年5月11日に、今のケア・インターナショナル ジャパンにあたる国際援助団体ケア・ジャパンを発足させました。それから30年間、私たちは、延べ74カ国において最も困難な状況におかれた人々の自立を支援してきました。

この節目の年にあたり、私たちの原点である「CAREパッケージ(ケア物資)」の歴史を紐解く中で、明らかとなった新たな事実について、ご紹介させていただきたいと思います。

10ドルで個人から個人へ届けられた支援

第二次世界大戦後の日本に対する米国等からの救済物資送付事業については、主にララ物資と「CAREパッケージ(以下、ケア物資)」に分けられますが、前者が団体から団体に送られたのに対し、ケア物資は個人からの10ドル程度の送金により、指定された日本の個人宅に郵便小包で届けられました。これは、個人が好きな時に送金するだけで、4カ月以内に指定した個人に直接救済物資を送ることができるという利便性を示しています。



多くの日系人もかかわった支援

では、実際にどのような個人がケア物資を送ったのかということについては、その多くが日系人によるものだったと考えられます。それは、ケア物資の送金窓口が、米国のニューヨークやロサンゼルス以外にも、ブラジル国内の2カ所にも設置されており、日系人に対する配慮がうかがえるからです。

また、それを裏付けるものとして、1949年4月28日、衆議院において、松本瀧蔵議員(広島県選出)らにより、「ハワイ並びに北南米在留同胞及び日系市民の対日援助に対する感謝決議案」が提出され、直ちに可決されました。その本文では、「終戦以来、ララ物資、ケア物資、救済小包その他各種の形式により、ハワイ並びに北南米在留同胞及び日系市民のわれわれに示された援助は莫大な数量にのぼり、真に感謝に耐えないところである。これらの厚意がいかにわれわれの慰藉と激励となったかは今更いうまでもない」と述べられています。

ケア物資は、多くの米国市民に支えられたものですが、そこには多くの日系人もかかわっていたという事実についても日本の戦後史の一部として記録に留め、後世に伝えていきたいと思っています。

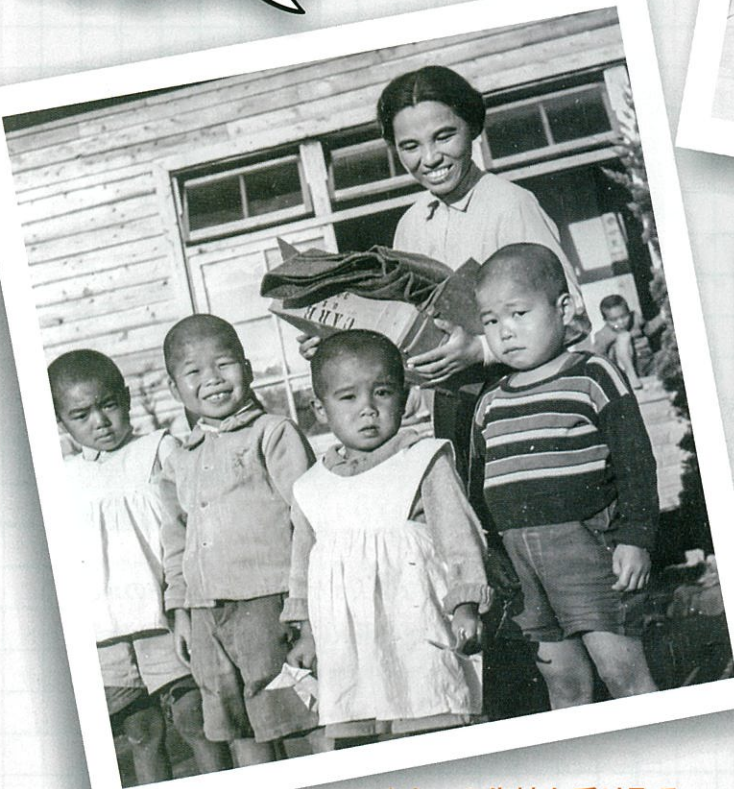
(マーケティング部 広報 甲斐 博子)

写真で見る「CAREパッケージ」ケア物資

最も弱い立場におかれた人々に 確実に届く支援の原点

広島、長崎、沖縄へ
被爆地など戦災の影響を
最も受けた地域を
優先して配布

→広島の劣悪なスラム街で暮らす9歳のマスタ・ヒロコさん。父親は原爆で亡くなり、母親はヒロコさんと幼い2人の兄弟を養うために月給11ドルの工場で働いています。



↑ウール生地を受け取る長崎の孤児院の職員と入所前はストリートチルドレンだった子どもたち。ウール生地は、子どもたちの冬服に仕立てられました。

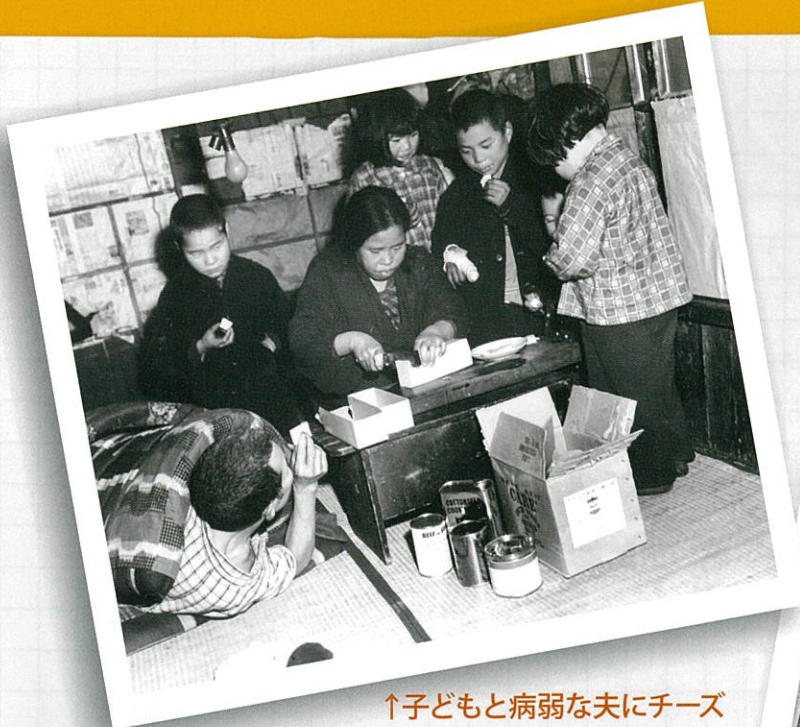


↑沖縄の糸満で貧窮するシノヒロ・ウトさん。夫を亡くし、戦争で3人の息子も失いました。配布を手伝う米軍兵士よりCAREパッケージを受け取っています。

CAREパッケージは
何種類あったの？

当初の日本向け小包は、米、味噌、醤油にコーンビーフ等缶詰他15品目をセットした「食糧セット」だけでしたが、その後、1949年3月に「ウール生地セット」、「毛布セット」、「ウール手編みセット」の3種類が追加されました。また、同年12月の感謝祭・クリスマス用に「ホリデーセット」(七面鳥などの缶詰セット)が追加され、さらに、時期は不明ですが「綿セット」も加えられ、6種類となりました。

病気の人、
船上で暮らす人、
障害のある人へ
生活困窮者に確実に届ける



↑子どもと病弱な夫にチーズを切り分けるヨコクラ・ヨシさん。子どもたちはチーズを見たことがなく「石鹸」と呼んでいました。子どもたちはすぐにその「石鹸」がおいしいと知りました。



↑横浜のナイトウ夫妻に届いた CARE パッケージ。夫妻は大岡川に浮ぶ船の6畳一間に5人の子どもたちと暮らしています。



↑米国・イリノイ州の失明した退役軍人協会から日本の失明した元軍人に対し届けられた CARE パッケージには毛布が入っていました。

これからの季節にコーヒープリンを作ってみては？

用意するもの(4人分)

- * 片栗粉…大さじ2
- * 砂糖…大さじ2
- * 粉末シナモン…小さじ1
- * 塩…ひとつまみ
- * 牛乳…2カップ
- * エスプレッソタイプの粉末インスタントコーヒー…大さじ1
(普通のインスタントコーヒーでも代用可)
- * バニラエッセンス…小さじ1
(バニラエッセンス数滴でも代用可)

作り方

1. 片栗粉、砂糖、シナモン、塩を混ぜ合わせ、片手鍋に入れる
2. 1. に牛乳をゆっくり注ぎながら、中火にかけて2分間よくかき混ぜる
3. とろみがついてきたら、火を止め、インスタントコーヒーとバニラエキストラクトを加え、なめらかになるまでかき混ぜる
4. カップに移し分け、ラップをし、冷蔵庫で2時間冷やし固める



《CAREパッケージレシピ》
あなたなら何を作りますか？


ベーコン、牛肉煮込み、レバー、コーンビーフ、マーガリン、砂糖、あんず、干しぶどう、小麦粉、チョコレート、全脂粉乳、卵粉、コーヒー、紅茶、石けん、イースト。これらは、当時、米国から欧州に送られた「CAREパッケージ」に入っていたものです。



スタッフ寄せ書き


30年後のケア・インターナショナル ジャパンはどうなっていてほしい？

事務局長
池田卓生




「人が人を想う気持ち」という原点を忘れずに、人の思いは必ず伝わることを信じて、人々の選択肢を拡げていく団体であり続けたいと願っています。

事業部長
菊池康子




ケア・インターナショナルジャパンの存在が組織が必要とされる社会に、いい役割を。先程の様に、私個人も必要とされる存在になることを一番の理想です。

財務・総務部長
八木澤ひろ子




単年度の CARE 110ヶ国・地域にまたがる活動を行うに、日本を含む世界中の人々に、チャンスと希望を届ける団体でありたいと願っています。

あつめて国際協力担当
秋田真千代




それぞれの国や地域が「自らの力を確かめる」とし、世界が「あつめと手を繋ぎ合う」状況となり、それぞれの活動が役割を終えていることを望みます。

マーケティング部長
高木美代子




世界から賞賛が得られるように、一歩の役割を終えます。一方、単年度のケア物資支援が、世界中の人道・開発支援へと自らを変化させていくのに、30年後の時点で「最も弱い立場に置かれた人々」に寄り添い、手を差し伸べることができると見識があり続けたいと思います。世界中の支援者の皆様と共に。

個人寄付担当
神裕子




CAREが、日本の皆さまの温かいお気持ちと、世界の人々、子どもたちの笑顔をつなぐ「架け橋」として、より強く信頼される存在になていければと願っています。

キャンペーン担当
大森恵実



日本を含む世界の貧困や不平等と対峙し、常に支援の届きにくい地域や人々に寄り添う団体でありたいと願っています。新しい行政や企業、その他のセクターと手を取りながら、NGOからこそできる活動が展開されていることを望みます。

広報
甲斐博子



寂しいけれど、この日本が自然災害への緊急対応をするだけの組織になっていて、CAREの活動が現地の人々に役に立っている状況で、達成できていければいいなと思っています。

編集後記 ●家では「歴女」と呼ばれています。「CAREパッケージ」の歴史を紐解く作業は、個人的に関心のある日誌史とも思いがけず交差し、とても興味深いものでした。今後もこの作業を継続し、また新たな発見があった際には随時ご紹介させていただきたく思っています。(甲斐)

●古き良き文化である手紙や葉書のように、ケア物資も元々は個人から個人への想いの結晶です。ハワイや北南米の方々が、宛名と住所を自分で書き、10ドルを払って、日本の多くの人たちに届けた温情は、いつの時代も、形や範囲は違えども見られます。もちろん今この瞬間も。(池田)

個人支援者専用ダイヤル TEL:03-5499-9931

生きるチカラ あなたのキモチ

公益財団法人 ケア・インターナショナル ジャパン
〒171-0031 東京都豊島区目白2-2-1 目白カルチャービル5階
TEL:03-5950-1335 FAX:03-5950-1375
E-mail: info@careintjp.org Website: www.careintjp.org
Facebook: www.facebook.com/CAREjpn Twitter: https://twitter.com/CAREjpn

※小誌へのご意見、ご感想を募集しています。発行元までお寄せ下さい。

※このニュースレターのデザイン・レイアウトは、CAREのデザインボランティアの大橋久美様のご協力により、制作されています。



給食の思い出

群馬県 手塚さち子さん

戦争中から戦後にかけて、私は茨城県西部の田舎におりました。昭和21年(小学校4年生)の時、生まれて初めて給食がありました。

校庭で自分たちが育てたさつまいもとかぼちゃを蒸したものを一回ずつ、クラス全員で食べました。食物など何もない私たちには、皆と一緒に食べる給食は、嬉しくて元気が出ました。その後、いつの間にか、脱脂ミルク一杯とコッペパン一個の給食に変わりました。なぜそうなったのか、はっきり解らないまましばらくの間、いただきました。後にこれがアメリカからの支援物資と聞き、戦争した国の人々を助けてくださった

私も
「CAREパッケージ」を
受け取りました

人々の優しさを想い、子供心にもありがたく、自分もそういう人になろうと思いました。あの時の給食がなければ私たちはどうなっていたでしょうか。今日私があるのは、あの頃、見ず知らずの人々の助けがあったからです。

その後、働く様になってから、感謝を込めて、ユニセフ募金をする様になり、毎月銀行の引き落しを確め乍ら、81才になる今に至っております。71年も前の事ですが、助けて下さった人々に心を込めて、「ありがとうございました」と申しあげます。本当にありがとうございました。



当財団では、引き続き、「CAREパッケージ(ケア物資)」を受け取った方を探しています。
ケア物資にまつわる思い出をぜひ当財団までお寄せください。
ファックスのほか、メール、郵送で受け付けています。

お送り先

公益財団法人 ケア・インターナショナル ジャパン

〒171-0031 東京都豊島区目白2-2-1 目白カルチャービル5階

TEL:03-5950-1335 FAX:03-5950-1375 E-mail:info@careintjp.org

あなたのご寄付で、このようなことが実現できます

今回のご寄付

あなたの**5,000円**で

生計向上支援

マラウィにおいて、**2人の女性**にベーカリーを始めるための小麦粉、酵母、砂糖、油などの物資を提供し、**経済的な自立**に向けた支援を行うことができます。

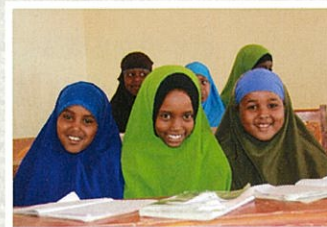


©Josh Estey/CARE

あなたの**10,000円**で

教育支援

ソマリアにおいて、**5人の子ども**たちが1年間小学校に通うための制服を支援することができます。



©CARE/Johanna Mitscherlich

毎月のご寄付

あなたの**毎月3,000円** (1日100円) で

母子保健

タンザニアにおいて、村で活動する**保健医療従事者**を11人養成し、安全な出産などの母体保護のための知識や、思春期の性に関する正しい知識を提供することができます。



©Charles Wanga/Jhpiego

ご支援者の声

「わたしも支援しています」

小林あゆみ 様

4年前、仕事でフランスに行きました。とても治安が悪く、ホームレスが物乞いをしているのを見て、先進国でもこんな状況であることに衝撃を受けました。普段自分が身を置いている世界が恵まれている環境なんだと自覚しました。



その後、アフリカや様々な国の問題にも関心を持つようになり、調べていくうちに、私も困っている人を助けたいと思うようになりました。

毎月の寄付にしたのは、一過性の寄付より継続的な支援をすべきだと感じたからです。

また、CAREを選んだのは、女性と女子を支援していること、さらに、歴史ある団体で、日本も実際に支援を受けていた過去があったのを知ったためです。受けたものは、世代を受け継いで返していきたいです。



寄付金の使途

(2016年度 経常費用のご報告)

皆さまからいただいたご寄付のうち、85%を事業費として活用させていただいております。

ご寄付の方法

ケア・インターナショナル ジャパンへのご寄付は、寄付金控除の対象となります。

今回のご寄付

任意の金額を随時ご寄付頂く方法です。

1 郵便振替

同封の払込取扱票 (紺色) をご利用いただき、ゆうちょ銀行窓口でお手続きをいただくと、振込手数料が免除されます。

2 クレジットカード

当財団のホームページからご寄付いただけます。

※ご利用いただけるクレジットカード



<http://30bokin.careintjp.org>

皆様の継続的なご支援が、人々の自立を支える大きなチカラになります。

毎月のご寄付 CAREマンスリー・ギビング・プログラム

毎月、1,000円以上の定額を継続的にご寄付いただく方法です。

1 口座振替 (金融機関・ゆうちょ銀行)

同封の「CAREマンスリー・ギビング・プログラム」参加申込書にご記入の上、下記事務局宛にご郵送ください。

2 クレジットカード

当財団のホームページからご寄付いただけます。

※ご利用いただけるクレジットカード



<http://www.careintjp.org/donate>

※既に毎月のご寄付をいただいている方で、寄付金額の増額をご希望の方は、下記の電話番号またはメールアドレスまでご連絡ください。お手続き方法をご案内させていただきます。

[お問い合わせ] **公益財団法人 ケア・インターナショナル ジャパン** (個人寄付担当 神)

〒171-0031 東京都豊島区目白2-2-1 目白カルチャービル 5階

TEL:03-5944-9931 FAX:03-5950-1375 E-mail:bokin@careintjp.org